

ネットスラング『なう』についての統語論的考察

早稲田大学 教育学部英語英文学科4年 平岡達也

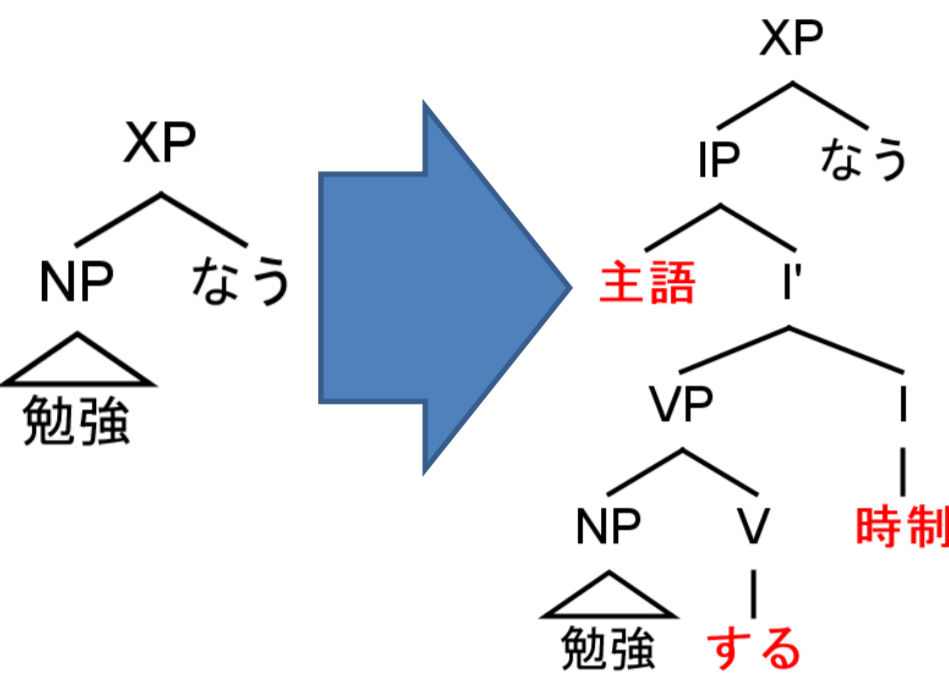
目的

名詞的な振る舞いをして、名詞と接続して完全なセンテンスと同等の情報量を持つ名詞句を作る「なう」について、より多くの用例を統語的に説明できる構造を提案する。

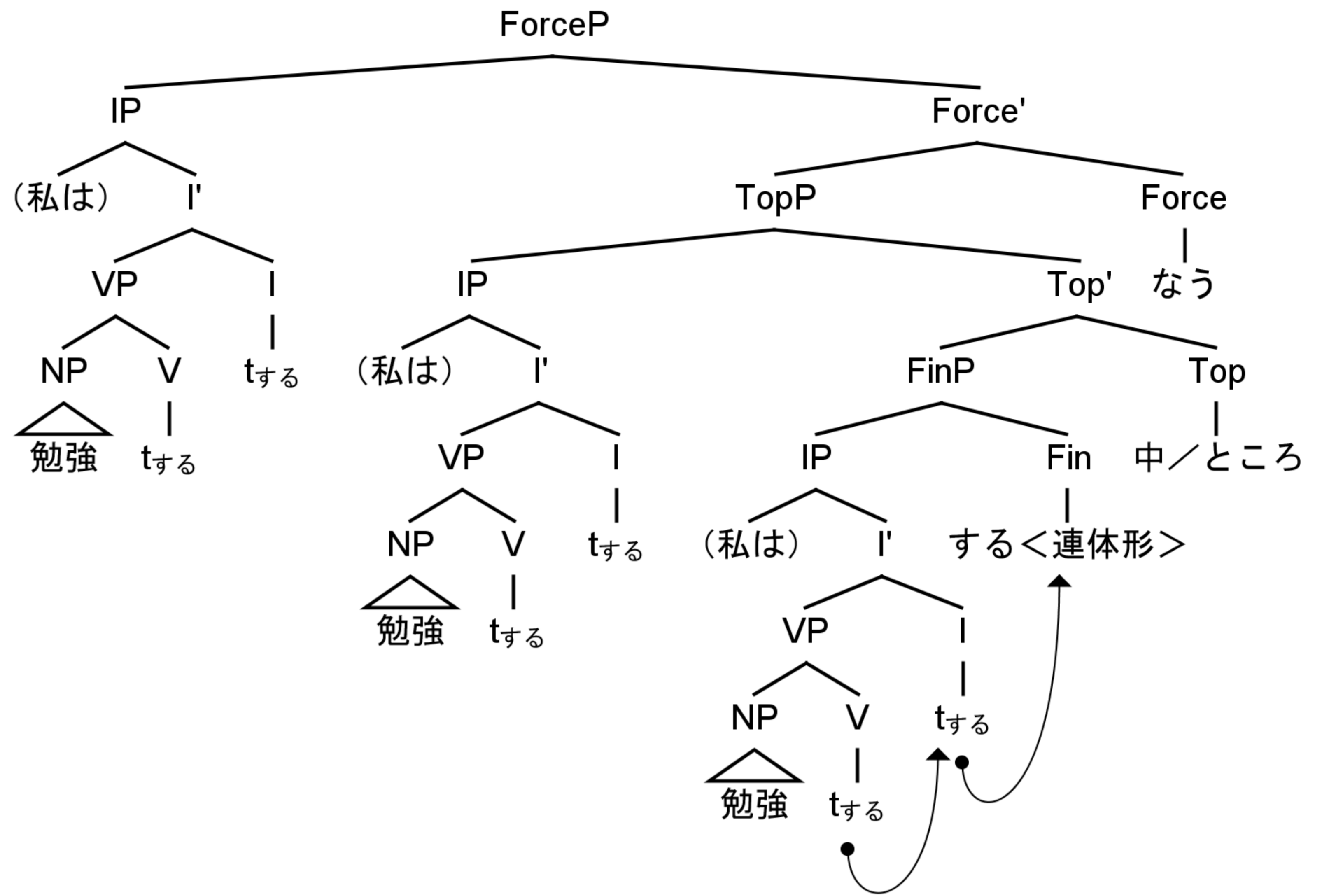
「なう」のセンテンス性

- (1)*勉強
 - (2) 勉強なう
 - (3) 勉強をしている
 - (4) 勉強中
 - (5) 勉強するところ
- 名詞単独で用いられる(1)は、疑問文への返答などを除いて非文である。
名詞に「なう」が接続した(2)は、主語や動詞、時制といった情報を持ち、(3)と同等の意味を持つ。
要素の省略・代用が起きていると考えるのが妥当。
センテンス性をもつ名詞句という点において、(4)や(5)も「なう」と似た性質を持っている。

構造に「センテンス性」を持たせる



単に「なう」を主要部とする範疇XPがNPを取る構造(図左)では、主語や時制が読み取られることの説明ができない。
「なう」が深層構造でIPを取り、何らかの操作によって表層構造を導出していると考え、センテンス性を持つという直感を説明できる。
本研究では、具体的に「なう」が統語的にどの位置を占める要素なのかを考察する。

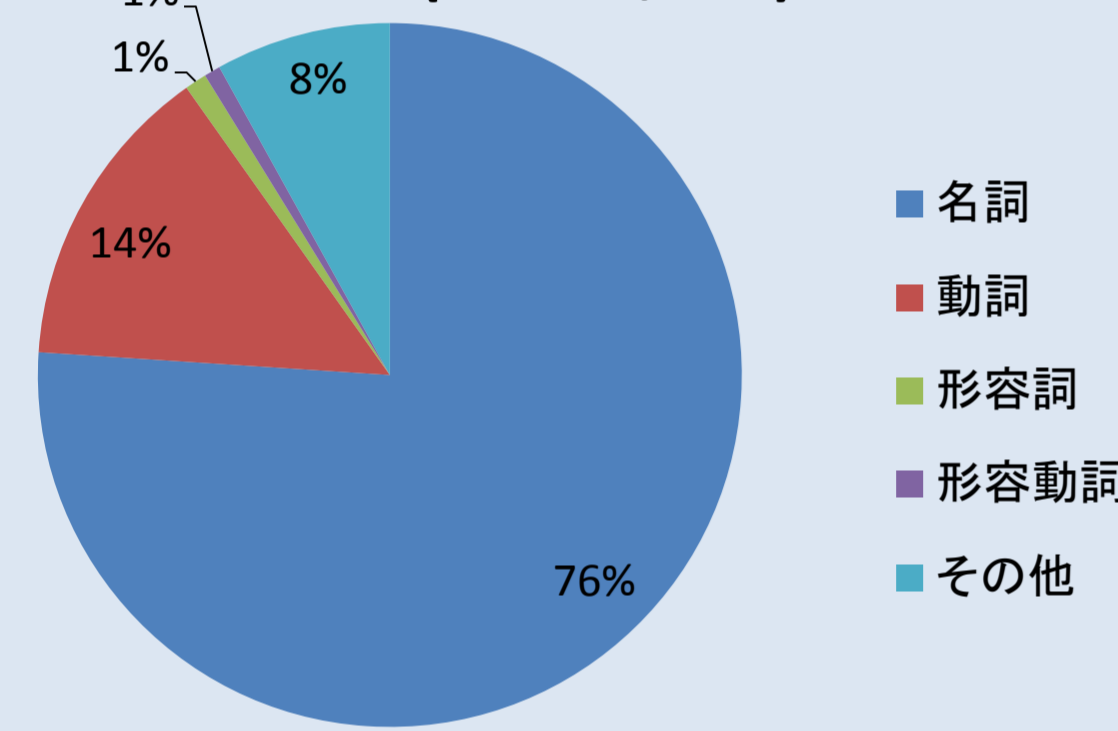


データ

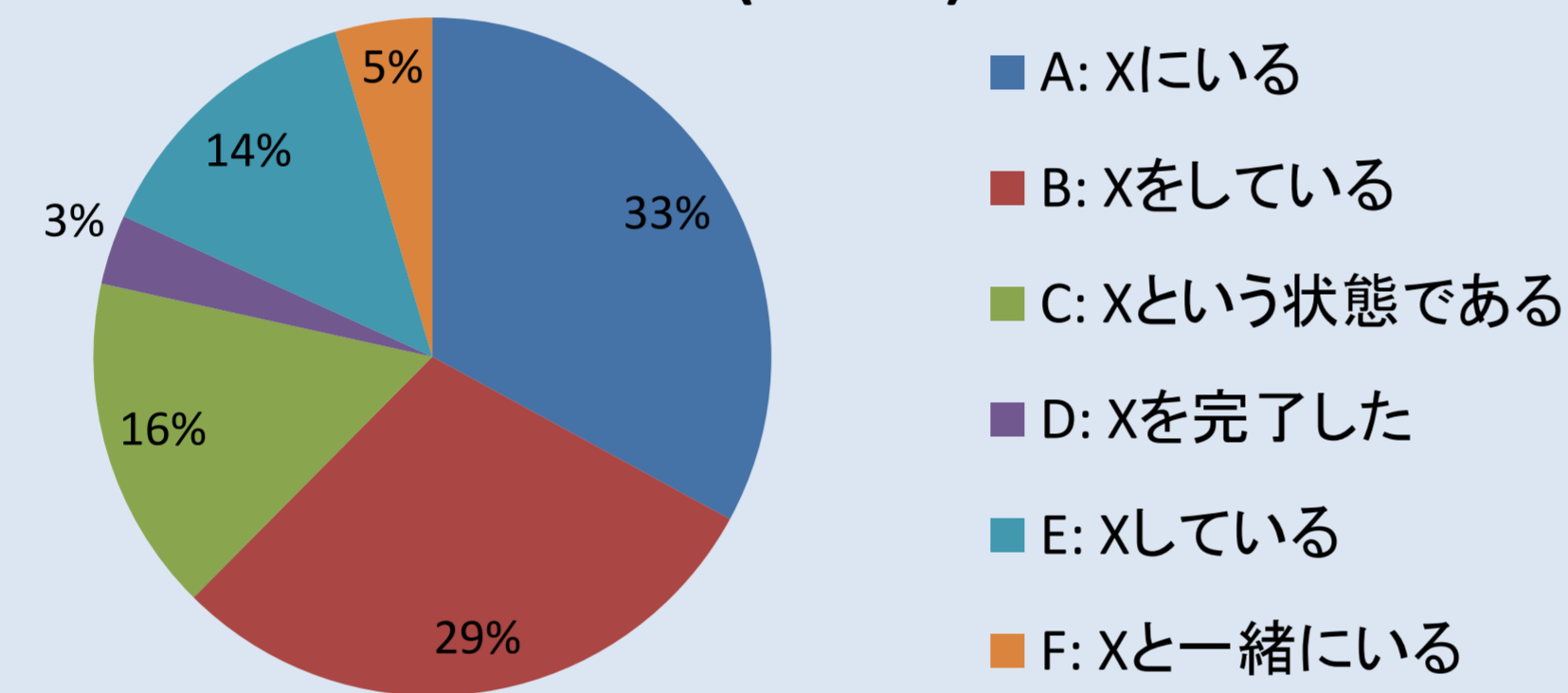
1. ツイートデータの分析

- 2016年10月1日から2016年10月7日までの一週間にTwitterに投稿された「なう」を含むツイート703,391件を収集した。
- 「なう」の直前に接続する語の品詞について、形態素解析器igo(形態素辞書はipadic 2.7.0)を用いて調べた(グラフ左)。
- また、特に用法の多い「名詞+なう」780件をランダムに選び、それらの持つ意味によって6種類のタグ付けを行った(グラフ右)。

「なう」が直前にとる品詞 (N=703,391)



「名詞+なう」の持つ意味による分類 (N=780)



2. 文法性判断

- 新語である「なう」の文法性判断は容易ではないため、Twitterユーザー63人(年齢16歳~53歳、平均22.94歳)を対象とした文法性判断アンケートを用いて基準とした。
- 被験者は文法的な文を5としたうえで、与えられた文(ダミー10件を含む29件)の文法性を5段階で評価する。
- Q1からQ11、Q19は「なう」の統語的位置を特定するために用いられる。
- Q12からQ16は「なう」に接続する動詞以外の活用語について、Q17とQ18は助詞「に」を落としたセンテンスの文法性判断に用いた。

文	平均	分散	文	平均	分散
1. 勉強するなう	3.02	2.20	11. 東京なうかを知りたい	2.90	1.81
2. 勉強なうだ	2.20	2.00	12. 猫が可愛いなう	3.08	2.26
3. 東京なうだ	3.46	2.12	13. 猫が可愛くなう	1.35	0.79
4. 勉強するなうだ	2.02	1.49	14. 太郎が静かなう	3.16	2.35
5. 彼は勉強なうだ	3.38	1.89	15. 太郎が静かなう	1.57	1.28
6. 勉強なうだから静かにして	4.05	1.31	16. 太郎が静かになう	1.41	0.96
7. 勉強なうか	2.87	2.17	17. 東京いくよ	4.75	0.61
8. 花子は勉強なうか	2.68	2.12	18. 東京いる	3.75	1.62
9. 勉強なうかを知りたい	2.97	1.94	19. 勉強なう中	1.51	1.26
10. 太郎は東京なうか	2.56	2.18			

分析

道具立て

- A. Left Periphery (Rizzi, 1997): CPをFocP、TopP、FinP、ForcePに分割し、それぞれに役割を持たせる。
- B. 三原 (2012): Left Peripheryを用いて、日本語の活用をCP内の移動で説明する(右図)。

分析過程

- 1. 「なう」はIPを包含する
「なう」がセンテンス性を持つという直感から、「なう」はIPを包含しており、統語的な位置としてはCP内のいずれかに存在すると考えられる。

2. 「勉強するなう」における「する」は連体形

- (6)において、名詞に接続する「だ」が表れていることから、「なう」は名詞性を持っていると考えられる。

3. 「なう」はFoc⁰以上である

- 「なう」の直前が連体形であれば、三原(2012)の構造より「なう」が存在する主要部はFoc⁰以上に限定される。

4. 「なう」は文末の「だ/か」と共起しない

- 文法性判断において、最上位のCPIに「だ/か」が存在し、「なう」が共起する場合に許容度が下がる。
- ゆえに、「だ/か」と「なう」は統語的に一つの位置を取り合っていると考えられる。
- 「なう」はForce⁰に出現し、下位のIPをSPEC-ForcePへ引き上げ、さらにC統御する要素を削除する操作を駆動する。

5. 「~中」「~ところ」の位置について

- (9)(10)より、「なう」と同じセンテンス性を持つ語である「中」や「ところ」は、Foc⁰かTop⁰のどちらかに位置している(本研究ではTop⁰に出現するとした)。これらも同様に引き上げ操作を駆動する。

課題

- 提案した構造は「東京なう」「花子なう」といった、場所を表す「なう」を説明できない。
- 強調構文を深層構造に仮定することで無理やり表層構造を出すこともできるが、移動のモチベーションが保証されない。
- 「なう」が導入された初期は「場所+なう」の用法が多かったことから、初期の用法としては単に「I am in Tokyo now.」からの部分的借用に過ぎない可能性が挙げられる。

考察

1. 「なうだ/なうか」に関する考察

- 「勉強なうだから静かにして」「勉強なうかを知りたい」などが比較的許容されるのは、「なう」と「か」がForce⁰を取り合うという分析に矛盾する。

- 「から」や「を」によって上位のNPが保証されることによって、「なう」のさらに上位で「だ」や「か」が出現している(右図)。

- Nau Movement:
「なう」が上位の空なN⁰にC統御されたときに限り、「なう」はそのN⁰にA移動する。

2. 「形容動詞+なう」に関する考察

- 「なう」は連体形を要求する一方で、「形容動詞+なう」において「静かなう」は比較的許容されない。

- これは、形容動詞が「名詞+だ」から成ることに起因する。活用語尾の-daは活用のためにFin⁰まで移動するが、Force⁰は「なう」に占められているためそれ以上の移動ができない。

- 最終的に、IPのRemnant Movement後の削除に巻き込まれる。

REFERENCE

- 現代用語の基礎知識 <1980年版>. (1980). 自由国民社.
- Haegeman, L. (1991). *Introduction to Government & Binding Theory*. Blackwell Publishing.
- Hornstein, N., Nunes, J., & Grohmann, K. K. (2005). *Understanding Minimalism*. Cambridge University Press.
- 加藤重弘. (2013). 日本語統語特性論. 北海道大学出版.
- 三原健一, 平岩健. (2006). 新日本語の統語構造—ミニマリストプログラムとその応用. 松柏社.
- Kudo, T. (2006, 3 26). *MeCab: Yet Another Part-of-Speech and Morphological Analyzer*. Retrieved 12 1, 2016, from taku910.github.io/mecab/
- Rizzi, L. (1997). The Fine Structure of the Left Periphery. In R. S. Kayne, T. Leu, & R. Zanuttini, *An Annotated Syntax Reader, Lasting Insights and Questions* (pp. 379-399). Wiley-Blackwell.
- 于振頌. (2002). 連体構造にある「用言」の陳述度について. In 慶応義塾大学日吉紀要 言語・文化・コミュニケーションNo.28 (pp. 71-125). 慶応義塾大学日吉紀要刊行委員会.
- Sile. (2010, 3 16). *Igo - Java Morphological Analyzer (Ver 0.4.3)*. Retrieved 12 1, 2016, from igo.osdn.jp
- Tagawa, T. (2010, 2 18). 思索の海. Retrieved 12 1, 2016, from Nau Shokou: d.hatena.ne.jp/dlit/20100218/1266487614
- Tamura, Y. (2011). 現代日本語における外来語の浸透—外来語系形容動詞(ナ形容詞)と接尾辞「-さ」の結合. 杏林大学外国語学部紀要第23号.
- Topia. (2007, 4 11). *Twitter*. Retrieved 12 1, 2016, from https://twitter.com/Topia/status/24133531
- Unno, Y. (2012, 2 16). *Twitter*. Retrieved 12 1, 2016, from twitter.com/unnonouno/status/170129203453374464
- 渡辺明. (2009). 生成文法. 東京大学出版会.
- Yamamoto, Y. (2007). *Twitter4j*. Retrieved 12 1, 2016, from twitter4j.org/ja/index.html
- 仁田義雄. (2012). 語と語形と活用形. In 三原健一, 仁田義雄, & 益岡隆志, *活用論の前線* (pp. 115-152). くらしお出版.
- 三原健一. (2012). 活用形から見る日本語の条件節. In 三原健一, 仁田義雄, & 益岡隆志, *活用論の前線* (pp. 115-152). くらしお出版.